

NFTの真実

～技術と文脈が生み出す価値～

自己紹介

- **大学:** [大学名を入力]
- **職歴:** [職歴を入力]
- **NFT/Web3経験:**
 - ユーザーとしての歴: [年数を入力]
 - 関連プロジェクト: [プロジェクト名を入力]

今日の話の流れ

3部構成でNFTを理解する

第1部：基礎理解

NFTとは何か、どう捉えるべきか

第2部：現状と歴史

NFTの現在地、バブルと詐欺の実態

第3部：実用と技術

実際のユースケース、技術詳細、未来展望

第1部：基礎理解

よく言われるNFTの定義

「代替不可能なデータ」

「唯一性が証明できる」

でも現実には...

- 偽物が横行している
- 詐欺も多発している

なぜこのギャップが生まれるのか？

NFTの正しい定義と理解

- NFTは世界に一つしかない組み合わせの情報を持ったデータ
- NFTそれぞれが持っている情報全てがユニークなわけではない
- 一意性を持つのはブロックチェーンに書き込まれた情報のみ
- 「偽物のNFT」はオンチェーン情報を偽装しているわけではない

今日のゴール

この技術的な正確性を理解してもらうことが目標

NFTの範囲

3つのレイヤー

1. デジタルトークン

- チェーン+コントラクトアドレス+トークンID

2. デジタルトークン + Metadata.json

- トークン情報と属性データ

3. デジタルトークン + Metadata.json + Image

- 画像まで含めた全体

技術的にはレイヤー1のみがNFT

NFTはよく紙と表現される

なぜ「紙」なのか

- NFT = 情報を書くための土台、そのものに価値はない
- 重要なのは「何が書かれているか」「誰が発行したか」「何に使えるか」

この「紙」に書かれているもの

- 所有者アドレス（誰が持っているか）
- トークンID（どの資産か）
- メタデータ参照（詳細情報へのリンク）

基礎理解のまとめ

NFTの本質

- **技術的には:** ブロックチェーン上の一意なトークン
- **実態は:** 完全公開DB上の電子データ
- **利点:** 誰でも自由に参照可能
- **一意性:** チェーン+コントラクト+IDの組み合わせ
- **課題:** 99%のユーザーは画像を含めて認識

技術と認識のギャップへの配慮が必要

第2部：現状と歴史

NFTの現在地

現在の位置：幻滅期

- ピーク時の過度な期待が崩壊
- 実用的な価値の模索段階
- 投機から実用へのシフト

検索トレンドも低下

- 2022年1月をピークに90%以上減少
- 一般的な関心は薄れている
- しかし技術開発は継続中

NFTの歴史と具体的事例1：バブル

バブルのピークと崩壊

- 2021年8月: 月間約3,650億円（ピーク）
- 2022年5月: 月間約30億円（99%減）
- 現在: 安定した低水準で推移

教訓

バブルは終わった。しかし技術は残った

NFTの歴史と具体的事例2：高額NFT

ジャック・ドーシーの初ツイート

- 落札額：約3.2億円
- "just setting up my twttr"
- 現在の価値：ほぼ無価値

CryptoPunks

- 最高額：約27億円（#5822）
- 2017年無料配布→億単位の取引へ
- Web3の象徴的存在

偽物・詐欺の実態と対策

偽物NFTの手口

- 人気プロジェクトの画像をコピー
- 類似名でコレクション作成、安く販売

ラスメモの偽物事例

- 「ラストメモリーズ」 NFTに偽物出現
- 公式と同じ画像・名前だが別コントラクト

どんな偽物を作れるか？

パターン1: 同じチェーンで違うコントラクトアドレス、全く同じMetadata

パターン2: 違うチェーンで同じコントラクトアドレス、全く同じMetadata

NFTは何でないのか

✕ オリジナルであることが保証されたデータ

→ データ自体はコピー可能

✕ コピー不可能なデータ

→ 画像などのコンテンツはコピー可能

✕ 所有権を示すもの

→ 法的な所有権とは別物

✕ 金融商品

→ 投機対象ではなく技術

現状理解のまとめ

NFTを取り巻く環境

- **市場:** バブル崩壊後、幻滅期を経て実用段階へ
- **詐欺:** 偽物は存在するが技術的に判別可能
- **認識:** NFT ≠ 画像・コンテンツ、技術理解が重要
- **課題:** 99%のユーザーの認識とのギャップ

冷静な理解と適切な活用が必要

第3部：実用と技術

NFTのユースケース例

- **会員権**: コミュニティアクセス、特典付与
- **チケット**: イベント入場券、転売防止
- **証明書**: 卒業証書、資格証明
- **ゲーム**: アイテム所有権、相互運用性
- **DeFi**: 金融ポジションの表現
- **アート**: デジタル作品の真正性証明

現在のメジャーユースケース1：ブロックチェーンゲーム

MyCryptoHeroes（国内BCGの先駆け）

- キャラと装備がNFT、MMORPGのRMT型P2Eの初期モデル

エグリプト（国内最大の成功事例）

- 基本は普通のスマホゲーム、たまにNFTキャラ出現、ゲーム性最優先

Axie Infinity（P2Eの創始者）

- ポケモン風バトル、キャラ交配でNFT増殖、独自トークンがデファクトに

現在のメジャーユースケース2：Courtyard

概要

スニーカーやトレカなど高額コレクタブルをNFT化して安全に取引

仕組み

1. **預託**: 物理商品をCourtyardに送付 → NFT発行
2. **取引**: NFTの売買で所有権が即座に移転
3. **交換**: いつでもNFTと現物を交換可能

現在のメジャーユースケース3：TripleS

概要

ファンがNFTを通じてアイドルグループの活動に直接参加

NFT活用

- **Objekts:** メンバーのフォトカードNFT
- **COMO:** ガバナンストークン機能
- **投票権:** メンバー選抜、楽曲選択、活動方針

現在のメジャーユースケース4：DeFiポジション

UniswapやAerodromeの事例

- 流動性提供ポジションをNFT化
- ポジション情報をMetadataに記載
- 簡単に情報参照可能

想定できる使い方

- 1年間引き出せないデポジットをNFT化
- そのNFTをディスカウントで取引
- 流動性ニーズと長期保有ニーズのマッチング

ERC721規格とは

概要

- 2018年1月承認、NFTの標準規格
 - 他にも拡張規格があるが、一般的に「NFT」とだけ言う場合はこれ
- 各トークンが一意のIDを持つ
 - 発行や転送など、基本的な一連の機能が定義されている

主要機能

- **ownerOf**: 所有者確認
- **transferFrom**: 移転
- **approve**: 移転許可
- **balanceOf**: 所有数確認

NFTの作り方

1. チェーン選択: Ethereum、Polygon等
2. 規格選択: ERC721、ERC1155等
3. コントラクト作成: スマートコントラクトをデプロイ
4. トークン発行: mint関数でNFT生成

カスタマイズ例

- 転送機能を外す（会員権用途）
- 条件付き転送

よく言われることと反論

「NFTには価値がない」

批判

ただのJPEG画像に価値はない

反論

1000円札も紙に数字と人の顔が書かれただけ

- 価値は社会的文脈が生み出す
- 希少性、信頼、コミュニティが価値の源泉
- 技術は価値を記録・移転する手段

「代替不可能って言うけど偽物できてるじゃん」

批判

コピーできるので唯一性に意味がない

反論

オンチェーンレベルでは偽造できていない

- ブロックチェーン上の記録は改ざん不可能
- 「偽物」は別の場所にある「似たもの」
- 検証ツールで簡単に判別可能

「NFTは終わった」

批判

バブル崩壊で価値が暴落、もう終わり

反論

ドットコムバブルでインターネットは終わったか？

- 投機バブルが終わっただけ
- 技術の実用化は着実に進行中
- ゲーム、DeFi、会員権で実用例多数

おまけ：オンチェーンデータだけがNFTと捉えることができること

例：トークンAの多面性

- ゲームXでは：最強のキャラクター
- ゲームYでは：最弱のキャラクター
- ゲームZでは：ありふれた武器

Lootの事例

- テキストのみのNFT
- コミュニティが独自に解釈・活用
- 複数のゲームやプロジェクトで利用

おまけ：NFTはマスアダプションするのか？

可能性1：データ主権への意識

現在の動き

- Kindle本の「購入」 vs 「無期限レンタル」 論争
- サービス終了によるデータ消失リスク
- 真の所有権への需要

NFTの役割

- デジタルデータの真の所有を可能に
- サービスに依存しない永続性

可能性2：自由に参照可能という利便性

既存の需要

- オタク部屋、祭壇文化
- SNSでのコレクション自慢
- デジタルアイデンティティ表現

NFTの優位性

- 公式グッズの証明が容易
- 転売ヤー購入でないことも証明可能
- AIの時代に真正性がより重要に

まとめ

NFTの真実

1. NFTは技術であり、投機対象ではない
2. 価値は文脈が生み出す
3. 実用化は着実に進行中
4. 技術的理解が重要

今後の展望

- ゲーム、DeFiでの更なる活用
- 新たなユースケースの登場
- 規制整備による健全な市場形成